

A portrait of a young man with dark, wavy hair, wearing black-rimmed glasses and a dark brown zip-up hoodie with white drawstrings. He is smiling broadly, showing his teeth. The background is a plain, light-colored wall.[illegible]

○なぜその建物を作りたいと思いましたか？またなぜ応募しようと思いましたか？

コンペテーマである「Communicity」という言葉に惹かれたからです。価値観の多様化している現代にシェアハウスという住まい方は徐々に浸透してきているように思います。「Communicity」という言葉はその先の未来を見据えているように感じました。このテーマで建築を考える事はきっと自分の将来の役に立つと考え、応募しようと思いました。

○提出作品を作るところに大変だったことはありましたか？

「学び」というものをどう捉えるか、それが暮らしとどうやって交わるかを考える事が一番大変でした。一言に「学び」といっても様々な意味合いを持ちます。知識をつける事、社会を知る事、現実を知る事、経験を積むこと etc…と様々です。

今回自分はこの「Community」における「学び」を「学校では教えてもらえない学び」としました。それは往々にして社会に出た後学ぶようなものです。

「Communicity」にはその「学び」を暮らしの延長線上で経験できる可能性を感じました。その考えにたどり着くまでが大変でした。

○実現するとしたらどこでつくりたいですか？

自分の提案は敷地を具体的に決めて設計しています。場所は愛知県長久手市です。



○シェアハウスに住んだことはありますか？

祖父の家がシェアハウスでした。祖父は工場と飲食店を経営していて自分の家を従業員達にシェアしていました。住んでいた人達は主に外国人実習生だったので、様々な国の文化を知ることができて楽しかった思い出があります。例えばザリガニを油で揚げて食べたりしたことがあります。エビみたいな味で意外とおいしかったです。

○このコンペティションを通して今後こういったシェアハウスを考え、企画したいと思いますか？

空間だけではカバーできない部分の枠組みをデザインする事がこれからの時代必要になってくると自分は考えています。ただそれが枠組みだけで完結することなく空間としての豊かさに繋がる事がもっと大切だと思います。今後はそういったモノを考えたり企画したりしたいと考えています。

○最後に発表に向けて意気込みをお願いします！

目指すのはもちろん1番です。悔いの残らないように頑張ります。